

第22回介護福祉士
【形態別介護技術】

事例 第115問

右利きの女性、Jさん(38歳)は、1年前に交通事故で脳の右半球に損傷を負い、重度の片麻痺と高次脳機能障害と診断を受けた。3か月前より、身体障害者更生施設に入所している。日中活動では立位安定の機能訓練が行われている。食事は自立しているが、排泄、入浴などの日常生活には介助が必要である。

午後は、自分で車いすを操作し、花壇の見えるところまで室内を移動している。休日には夫と娘が面会に来ており、一緒に野外の散歩を楽しんでいる。

次の記述のうち、Jさんの行為として出現しないものを一つ選びなさい。

- 1: 車いすのブレーキを掛け忘れる。
- 2: 車いすが左側の物にぶつかる。
- 3: 施設内で迷子になる。
- 4: 左手で本のページをめくる。
- 5: 衣服を裏返しに着てしまう。

事例 第116問

右利きの女性、Jさん(38歳)は、1年前に交通事故で脳の右半球に損傷を負い、重度の片麻痺と高次脳機能障害と診断を受けた。3か月前より、身体障害者更生施設に入所している。日中活動では立位安定の機能訓練が行われている。食事は自立しているが、排泄、入浴などの日常生活には介助が必要である。

午後は、自分で車いすを操作し、花壇の見えるところまで室内を移動している。休日には夫と娘が面会に来ており、一緒に野外の散歩を楽しんでいる。

花壇を見ていたJさんが車いすから立とうとして転倒した。転倒防止に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1: 立位動作の支援は訓練時に限定する。
- 2: 車いすにY字帯をつける。
- 3: 車いすに離床センサーをつける。
- 4: 日々の散歩の付き添いは家族に任せる。
- 5: 車いすの使用時間を限定する。

事例 第117問

右利きの女性、Jさん(38歳)は、1年前に交通事故で脳の右半球に損傷を負い、重度の片麻痺と高次脳機能障害と診断を受けた。3か月前より、身体障害者更生施設に入所している。日中活動では立位安定の機能訓練が行われている。食事は自立しているが、排泄、入浴などの日常生活には介助が必要である。

午後は、自分で車いすを操作し、花壇の見えるところまで室内を移動している。休日には夫と娘が面会に来ており、一緒に野外の散歩を楽しんでいる。

娘さんの卒業式が2週間後にあり、Jさんは出席を希望している。家族は、「出席させたいが心配である」と話している。家族への支援に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1: 式の終了まで参列できるように励ます。
- 2: 事故が発生した場合の対処を相談しておく。
- 3: 車いす対応が可能な車で行くように勧める。
- 4: 車いす移動や排泄の介助を練習してもらう。
- 5: 会場の環境、設備を事前に確認するように勧める